



ディエゴ・ソーサ

Chubb 損害保険株式会社

代表取締役社長 兼 CEO

チャブ・ファー・イースト リージョナル・プレジデント

ごあいさつ Message from the CEO

地球規模の感染症にも屈せず、明るい未来を思い描き実現してまいります。

2020年は世界にとっても、日本にとっても未曾有の一年となりました。多くの人々やビジネスに影響を与え、経済活動にも甚大な影響をおよぼしました。新型コロナウイルス感染症によるパンデミックのために、大切な方を亡くされたすべての皆様へ衷心よりお悔やみ申し上げます。今、私たちは家族や友人、ビジネスパートナーやお客様と再び近しく関わることのできる明るい未来を待ちわびています。

当社は事業の観点において新型コロナウイルス感染症により財政的にも、また運営の面でも影響を受けました。しかしながら、当社は迅速に対応しデジタルトランスフォーメーションを加速させ前進し続けることができました。当社の代理店やビジネスパートナーは、新しい状況に対応し、お客様へのサービスを提供し続けるという並外れた力を見せてくれました。そのためこうした困難な状況にも関わらず、2020年も業績を維持し5年連続で業界他社を上回る増収率を記録することができました。当社の保険引受利益は48億円となり、税引き後純利益は34億円となりました。ソルベンシー・マージン比率は業界トップクラスの1,613.5%となり、引き続き良好な資本状態と十分な保険金支払い能力を裏づけています。こうした状況下で新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたビジネスラインもあったものの、ほぼすべてのビジネスラインと

販売チャンネルで非常に良好な業績を収めることができました。この良好な財務状況により当社は積極的な戦略投資を行い前進し続けることが可能となり、今後も成長を遂げさまざまな機会を手にすることができると考えています。

チャブ・グループとしても、世界的にも良好な業績を収めました。保険マーケットは、久しぶりにハード化しています。総収入保険料は3.4%成長し約413億ドル、正味収入保険料は5.5%成長し約338億ドルとなりました。新型コロナウイルス感染症などの影響があったにも関わらず、保険引受利益を出すことができました。チャブ・グループの損害保険事業のコンバインド・レシオは96.1%となり、この数字は多くの保険会社にとっては通常または良好な年のものと言えますが、当グループにとってはそうではありません。チャブ・グループの過去10年間のコンバインド・レシオは平均91.2%で、競合他社を約7.7%下回っていました。チャブ・グループは今後も、株式時価総額において世界最大級の上場損害保険会社であり続けます。

さて、少し自己紹介をさせていただきます。私は2020年10月、チャブ保険が日本での記念すべき100周年を迎える中、代表取締役社長兼 CEOに就任いたしました。就任前は、ラテンアメリカのチャブおよびエースで

13年以上働き、直近はチャブ・ブラジルのエグゼクティブ・バイス・プレジデント兼チーフ・オペレーティング・オフィサーを務めていました。当社が次の100年へと歩みを進める中この組織を率い、これまで築いてきた歴史にさらなる成果を積み上げられることを誇りに思っています。

当社の基盤は非常に強固で、今後も利益ある成長を継続することができると考えています。これまで以上にマーケットの機会を果敢に活用してまいります。すでに個人向けビジネス、特に旅行保険事業では勢いを取り戻しつつあります。パンデミック以前そもそも旅行保険は2桁成長していた事業です。当社には成功に必要な人材、カルチャー、商品、テクノロジーが揃っています。卓越した実行力を誇りにお客様、ビジネスパートナーの皆様のお役に立てるよう尽力いたします。当社は引き続き、明るい未来を思い描き実現してまいります。

今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

